

## 「好き」を社会の価値に変える。椋山女学園大学は、 2028年4月に「文化プロデュース学環」開設を構想

人口減少、デジタル化、グローバル化が進む時代に、文化を地域創生・産業振興・社会課題解決の資源として活用できる人材の育成をめざし、椋山女学園大学（愛知県名古屋市、学長：黒田由彦）は2028年4月、星が丘キャンパスに「文化プロデュース学環」の開設を構想しています。ポップカルチャー、エンターテインメント、ライフスタイルを主軸に、文化を「理解する」「創造する」「社会に実装する」新たな学びを展開します。

### 1. 開設構想の背景

現代社会は、人口減少、デジタル化、グローバル化の進展により、地域、産業、文化のあり方が大きく変化する構造的転換期にあります。

その中で文化は、単に鑑賞・消費されるものにとどまらず、地域創生、産業振興、社会統合、新たな価値創造を担う重要な「資源」として注目されています。アニメ、マンガ、映画、音楽、ゲーム、テーマパーク、ライフスタイル、地域文化など、人々の心を動かす文化的資源は、社会や産業のさまざまな場面で活用が期待されています。

一方で、日本の高等教育においては、文化を「創る」「編集する」「社会に実装する」という観点から、分野横断的に学ぶ教育の枠組みは、必ずしも十分に整備されているとはいえません。文学、芸術、社会科学などの既存分野を横断し、文化を社会の中で価値へと変換できる人材を育成することが求められています。

こうした社会的要請に応えるため、椋山女学園大学は、学部等連係課程として「文化プロデュース学環」の設置を構想しています。

### 2. 「文化プロデュース学環」の概要

「文化プロデュース学環」は、複数学部の教育資源を横断的に活用し、文化を多角的に学ぶ新たな教育モデルです。

本学環では、文化を歴史的・社会的文脈の中で読み解く「文化の理解」、企画や表現を通じて新たな価値を生み出す「文化の創造」、地域・企業・行政などと連携し、社会の中で価値を実現する「文化の社会実装」を統合的に学びます。

名称は「文化プロデュース学環」、募集定員は40名、設置場所は星が丘キャンパスを予定しています。開設は2028年4月を予定しており、現在、設置構想中です。

### 3. 学びの特色

本学環では、「好き」を「価値」に変換し、文化の力で社会に新しい賑わいをもたらす人材の育成をめざします。

学びの主軸となるのは、「ポップカルチャー」「エンターテインメント」「ライフスタイル」の3領域です。アニメ・マンガ、映画・ドラマ、音楽、テーマパーク、ゲーム、アイドル、自然、暮らしなど、現代の多様な文化を対象に、人々の心を動かすヒット作や心地よい暮らしに共通する仕組みを学びます。

また、身の回りの当たり前に潜む疑問を分析し、まだ社会が十分に気づいていない「新しい価値の種」を見出す力を養います。知的財産権、消費者心理、コンテンツ企画などの知識・スキルを学ぶとともに、フィールドワークを通じて、地域社会に新しい体験価値を実装する実践力を磨きます。

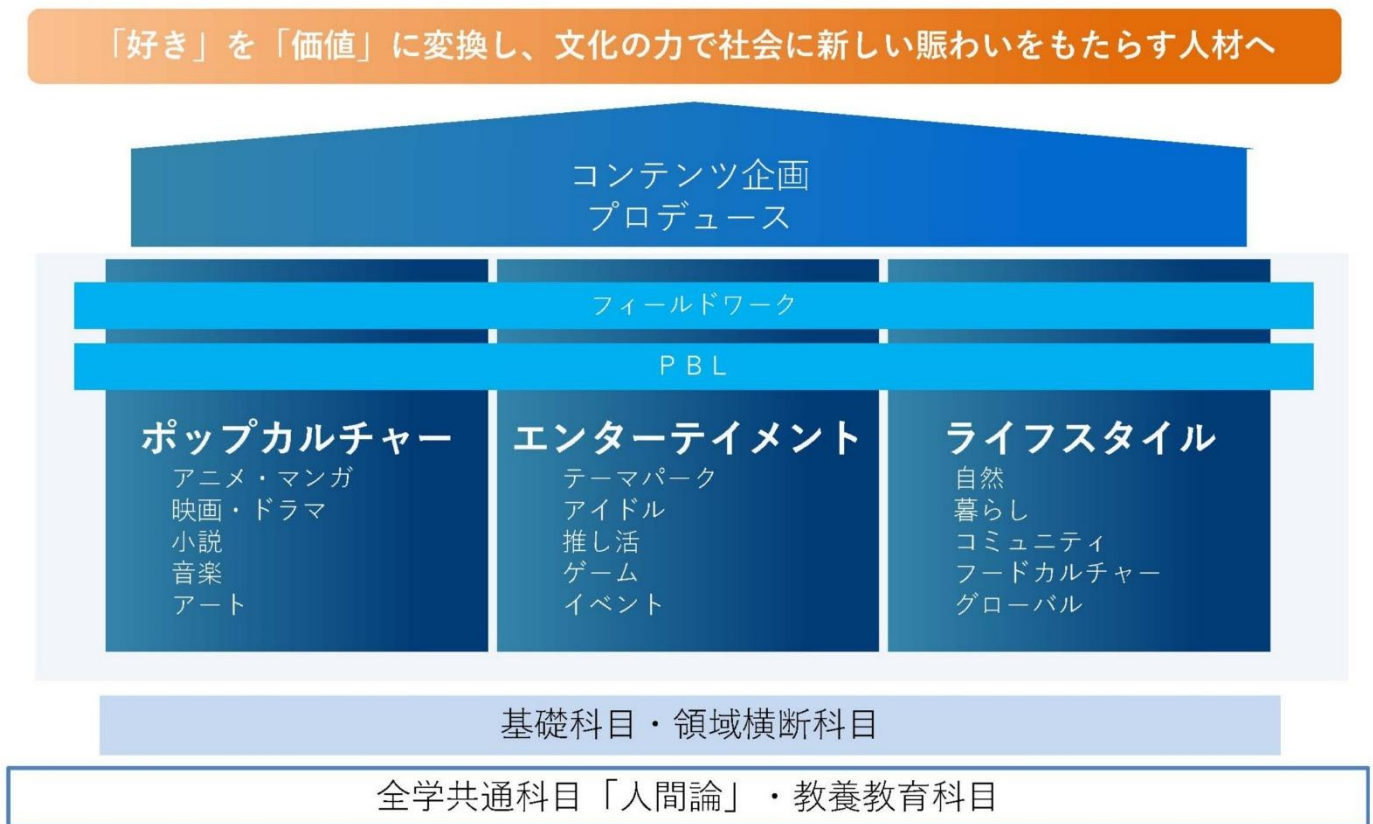
卒業研究では「好き」をビジネスや社会的価値へと変換するプロセスを集大成し、企画立案から実施、運営、評価までを一貫して担える実践的な文化プロデューサーの育成をめざします。

さらに、文化をプロデュースする学びを通じて、学生一人ひとりが自らの個性や強みを理解し、なりたい自分に近づくための

## NEWS RELEASE

「セルフプロデュース力」も養成します。

(学びの概念図)



#### 4. 社会共創空間を活用した実践的なPBL

本学環では、本学が整備する共創空間（2027年4月竣工予定の125周年記念棟）を拠点に、地域、企業、行政と連携したPBLを教育の中核に据える予定です。学生は、実社会の課題やニーズに向き合いながら、文化的資源を活用した企画を立案し、実施、検証するプロセスを経験します。これにより、単に知識を習得するだけでなく、多様な主体と協働しながら価値を実現する力を身につけます。

文化を学問として理解するだけでなく、社会の中で活かし、届け、動かす力を育成することが、本学環の大きな特色です。

#### 5. 養成する人材像

本学環では、次のような力を備えた人材の育成をめざします。

1. 多様な文化（芸術・メディア・地域文化等）を歴史的・社会的文脈の中で批判的に理解する文化理解力
2. 既存の価値観や制度を相対化し、問題を構造的に捉え、新たな視点を提示する批判的思考力
3. 文化資源を活用し、企画立案・実施・評価までを一貫して行う企画・プロデュース力及び実践的能力
4. 多様な主体（地域・企業・行政等）と協働し、社会の中で価値を実現する能力
5. 自らの考えや成果を多様なメディアを通じて効果的に発信する表現・発信力

これらの力を総合的に育成することで、文化を軸に社会課題の解決と新たな価値創造を担う人材を輩出します。

#### 6. 卒業後に想定される進路

「体験価値」をデザインする力は、コンテンツ産業やエンターテインメント分野に限らず、一般企業、行政、地域団体など、幅

## NEWS RELEASE

広い領域で求められています。

卒業後の進路としては、アニメ・ゲーム制作会社、出版社、テーマパーク運営会社、芸能プロダクション、広告代理店、ライフスタイルビジネスなど、文化的資源を価値創造につなげる企業が想定されます。

また、一般企業においても、企画、広報、マーケティング、コンテンツプランナー、コンサルタント、提案営業など、人の心が動く仕組みを理解し、ニーズに応える仕事での活躍が期待されます。さらに、官公庁、公務員、NPO 法人などにおいて、行政、企業、地域住民、専門家など立場の異なる人々をつなぎ、共通のゴールに向けてプロジェクトを推進する力を発揮することも想定しています。

### 7. 取得をめざせる資格

(取得可能な資格) 司書、学芸員

(取得を応援する資格) 知的財産管理技能検定 3 級、イベント検定、リテールマーケティング (販売士) 検定、準 PR プランナーなど、文化、企画、流通、広報に関わる資格

### 8. 今後の展望

椋山女学園大学は、「文化プロデュース学環」を通じて、文化を軸に社会課題の解決と新たな価値創造を担う人材の育成をめざします。

本学環で展開する分野横断型の教育モデルは、学生の実践力を高めるだけでなく、将来的には全学的な教育改革にもつながるものと位置づけています。

文化を「好き」で終わらせるのではなく、社会に届く価値へと変えていく。椋山女学園大学は、これからの時代に求められる新しい学びの創出に取り組んでまいります。

※「文化プロデュース学環」は 2028 年 4 月開設予定・設置構想中です。内容は予定であり、今後変更となる場合があります。

本件に関するお問い合わせ先

椋山女学園大学 企画広報部 広報課 担当：渡部、中島

TEL：052-781-5940（直通） メールアドレス：kouhou@sugiyama-u.ac.jp